

た か み い ち い せ き
高見Ⅰ遺跡 2次

合同報告会資料

事業名 平成28年度四国縦貫自動車道（中山スマートIC）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
依頼者 西日本高速道路株式会社 四国支社 愛媛高速道路事務所
調査主体 公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター
調査場所 伊予市上灘地内
調査期間 平成29年1月13日～平成29年6月30日
調査面積 4,676㎡(2,338㎡×2層)



高見Ⅰ遺跡遠景（赤枠内が調査区）



高見Ⅰ遺跡 2次調査では、県内でも珍しい旧石器時代の遺跡が発見されました。遺物の出土点数もさることながら、特筆すべきは礫群という生活の跡が多く確認されたことです。

高見Ⅰ遺跡のある丘陵は、遊動を続けて生きてきた旧石器時代の人たちの生活の場であったようです。



高見 I 遺跡の概要

高見 I 遺跡は、中山川（なかやまがわ ひじかわしりゅう 肱川支流）の最上流域（さいじょうりゅういき）にあたり、独立丘陵（どくりつきゅうりょう）の上にあります。以前からこの地域は旧石器時代（きゅうせつき）や縄文時代（じょうもん）の遺跡が多数あると知られた地域でした。調査の結果、遺物総数は約 5,000 点を数え、多くの石器（せつごう）が接合し、礫群（れきぐん）まで伴う（ともな）という極めて良好（りょうこう）な旧石器時代の遺跡であることが判明しました。出土した遺物として、ナイフ形石器（がたせつき）、剥片尖頭器（はくへんせんとうき）、角錐状石器（かくすいじょうせつき）、スクレイパー（ちようき）、彫器（せきすい）、石錐（いぶつ）等が確認できました。特にナイフ形石器は100点を数えます。石器は集中する所が複数あり、かつそれぞれが関係することが解ってきました。礫群は必ず石器集中域（しゅうちゅういき）に近接（きんせつ）して認められます。また、縄文時代の落とし穴・遺物（いぶつ しゅつど）も出土しています。遺物量はとても少なく、耕作土（こうさくど）や落とし穴にわずかに含まれる程度であるため、生活の場であるというより狩猟場的（しゅりよう）な様相が強いと考えられます。



杭跡が残る落とし穴



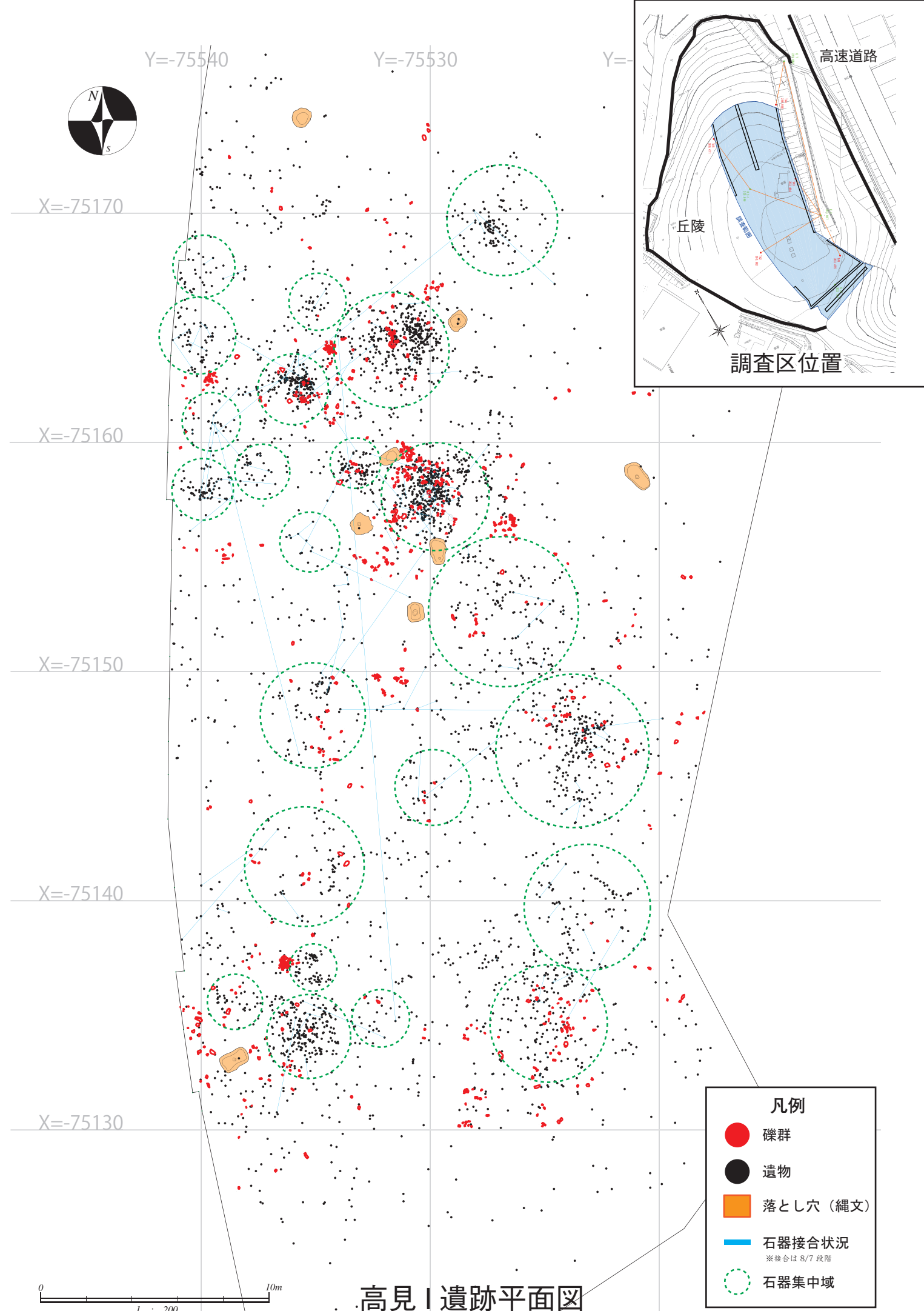
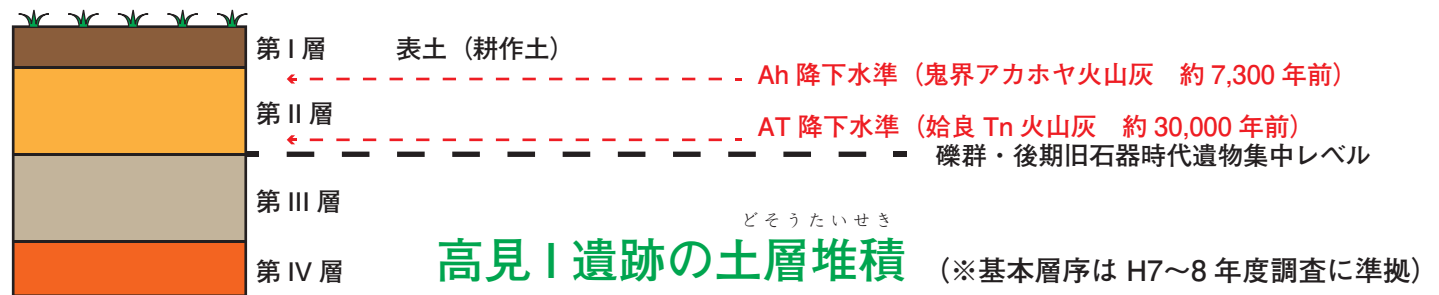
ナイフ形石器出土状況



礫群検出状況

高見 I 遺跡の年代

旧石器時代の年代を把握（はあく）する上で大事なのが火山灰（ふく）を含む土です。高見 I 遺跡の年代は、土層（どそう）の堆積（たいせき）状況や始良 Tn 火山灰（あいら たんざわ かざんばい）（AT）の状況から考えると、約 30,000 年前後と考えることもできますが、石器（けいしき）の型式を考えると複数時期あることが考えられます。遠隔地（えんかくち）ではありますが、南九州では P17（桜島 - 高崎 6 テフラ 約 26,000 年前）以前に剥片尖頭器（はくへんせんとうき）が中心となり、P15（桜島 - 高崎 4 テフラ 約 24,000 年前）以後に三稜尖頭器（さんりょうせんとうき）（角錐状石器（かくすいじょうせつき））が中心になることから、高見 I 遺跡の年代観（ねんだいかん）は、約 30,000～20,000 年前の人々が遺（のこ）したものと考えることができます。今後の課題として、高見 I 遺跡は長い間、ヒトが回帰遊動（かいきゆうどう）することで残されたものなのか、あるいは出土状況からみるように短い期間に残されたものなのかを検討する必要があります。



旧石器人の生活跡

れきぐん きゅうせっきじだい せいかつし
礫群は旧石器時代の生活跡と言われ
ており、主要な遺構の一つです。赤く
変色しており、多くが熱を受けている
と考えられます。

今回行った調査においては、複数の
礫群が確認されました。

礫群は主に調理に使用していたと考
えられています。

礫群の近辺ではたくさんの石器・敲き石が出土しており、石器を製作してい
る痕跡も確認することが出来ました。旧石器時代の人々の生業の一端が垣間見
れる貴重な資料です。



赤く被熱した礫群

剥片尖頭器 ～九州との関係性～

はくへん せんとうき
高見I遺跡では剥片尖頭器
(Stemmed point または슴베찌르개)

という石器が確認されました。剥片尖
頭器は、始良Tn火山灰が日本列島に
降下(約30,000年前)した後に短期
間出現する石器です。その出自をユー
ラシア大陸に求めることが出来る石器
であり、ロシアの沿海州ウスチノフカ
遺跡、韓国のスヤンゲ遺跡、宮崎県山田遺跡等が有名です。日本列島では大部
分が九州で発見され、他地域ではほとんど発見されていません。高見I遺跡は
近接する東峰遺跡第1地点に続く発見であり、発掘調査においては四国で初め
ての確認事例です。



剥片尖頭器 (III層上面出土)

瀬戸内技法～広域移動する人々との繋がり～

また、高見I遺跡では瀬戸内技法と考えられる遺物が確認されています。た
だ、生産された痕跡が認められないことから、交易等によって遺跡内にもた
らされたものと考えられます。瀬戸内技法は日本列島に広く分布することか
ら、広域移動する人々と何らかの関係があったと考えられます。